

学校だより



市川市立平田小学校

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する 共に未来を創る～

いなほ
稲穂

学校教育目標

夢をもち、たくましく生きる
子どもの育成

No.5

令和5年5月10日

校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/hirata-sho>

目的を意識して、自らで考えて行動するひらたっ子

4月初旬、大リーグのエンジェルス vs ブルージェイズの対戦が日本で話題になりました。母校・花巻東高校の先輩後輩にあたる菊池雄星選手と大谷翔平選手の対決があったからです。結果、菊池選手は大谷選手にホームランを浴びるなどKOされましたが、後輩について「世界を代表するバッター」と敬意を表しています。この菊池選手は、憧れだったイチロー選手から「日本で一番良い左投手」という称号を授かり、5年目の今シーズンはここまで5連勝と大活躍。チームの勝利に貢献しています。高校生のころから、自分で考えた練習メニューやトレーニング方法を実践するなど研究熱心だった菊池選手ですが、大リーグ1年目を終えた時のインタビューの内容を今でも覚えています。

当時在籍をしていたマリナーズでは、中4日の先発投手の調整について練習メニューが決められていなかったそうです。ピッチャーによってはグラウンドに出ない選手もいますし、ピッチングをしない選手もいるなど選手によって様々なのだと言います。日本ではキャッチボールやランニングなど、コーチに言われたことをやっていたのが、MLBでは自分自身で決める場面が格段に多いのだそうです。もちろん、コーチからのアドバイスなどがありますが、体の状態に合わせてやるかやらないかは個人の判断に委ねられるのです。

興味深いのは、菊池選手が「日本では、考えて投げる練習が足りていなかった」と語っている点です。MLBでは投球練習前に「今日の目的」を明確にすることが義務づけられているのだそうです。例えば、1ボール2ストライクの場面で、三振を取るスライダの練習をするとか、全球について「ここへ投げる」と宣言して投球するとかいうことです。一般的に、球数を目標にしてしまうことがありますが、目標を設定して毎日考えながら投げる練習というのをプロに入ってから意外としていなかったと語っています。つまり、ぶっつけ本番、結果に一喜一憂だったということです。

日本とアメリカの違いは、調整方法の違いというよりも、個に任されている部分が多いということなのでしょう。逆に言えば、個人の責任で試合時に100%の状態に持っていければ何でもよいということにもなります。個人が「自由」と「責任」のもとで考えながらプレーしているのです。最後に次のように語っています。「“なぜやるのか” “どういう目的でやるのか” を常に問うことが、結果を出すために必要なことだと思います。そのことにもっと早く気づきたかったと今は思っています」と。

一方の大谷選手は、高校時代からマンダラチャートと呼ばれる夢の実現に向けた目標達成シートを活用して、必要なことの習得のために練習をし、今も食事や睡眠の管理・充実を徹底しているといえます。

さて、目の前の子供たちも学習やスポーツ、芸術関係ほか活躍の場がたくさん用意されています。でも、その取り組み方を客観的に一度見直してみることが大切です。言われるがままプレーする操り人形なのか、それとも目的をもって一瞬一瞬を考えながら取り組んでいるのか、どちらに近いでしょう。子供たち自身が、目的を意識して工夫した取り組みをすることができれば、結果を問わず自信の積み上げになることは間違いありません。

私たち大人は、子供たちの発達段階に応じた支援者となり、意欲と考える力を引き出すことに専念しなければならぬのだと改めて考えています。



今年度も学校運営協議会が来週15日から動き出します



学校運営協議会とは、家庭・学校・地域がともに手を携えて学校運営に参画し、一体となって質の高い教育を提供し、“地域とともにある学校”づくりを目指す仕組みです。市川市では、今後すべての公立幼稚園・学校

に学校運営協議会を設置して、学校運営の一層の充実を図っているところです。

委員は、学校支援コーディネーター（推進員）を中心に、学識経験者や園長・校長、教職員、地域住民、保護者などの15名以内で構成されます。家庭・地域とのつながりは“宝”であり、子供の成長を支えるには、大人同士のつながりが大切であるという理念の下、その基盤となる学校運営協議会を設置します。

第1回目は、①学校運営協議会の活動について ②令和5年度学校経営基本方針の承認・意見 ③その他情報交換などについて協議・意見交換をする予定です。運動会も学校や児童の様子を直接目にしていただく絶好の機会ですので、お声かけしています。今後は、第八中学校ブロック「地域学校協働本部」の活動も本格化していきます。よろしくお願いします。



協働活動推進員	佐藤 博彰様
協働活動推進員	安田 はな様
平田町会	小郷 一郎様
新田2・3丁目自治会	川原 征二様
八幡南口町会	戸村 節子様
民生児童委員	江口 洸 様
民生児童委員	橋本 雅子様
民生児童委員	亀崎 典子様
元平田小学校長	川崎 敏美様
市川工業高校教頭	小林 正明様
本校PTA会長	和田 覚 様
同 副会長	久保 郁美様
元PTA会長	石井 伸滋様

全国学力・学習状況調査の出題を振り返る

4月18日に6年生は国語と算数の全国学力・学習状況調査を実施し、2年生から5年生は一般の学力テストを行いました。結果分析された資料が個票となって配付されます。調査を終えた6年生数人に「どうだった？」と尋ねてみました。すると、「算数はできたけど、国語は時間が足りなかった」と複数の子が答えてくれました。

それからしばらくして、改めて6年生が取り組んだ問題を見返すとともに解いてみました。出題の意図がともよくわかりやすく、慣れていないと解答しづらいことに思い至ります。ドリル問題やワークテストとは明らかに違います。国語も算数も問題文をしっかり読んで、設問を理解しないと解けません。教員でも二、三度読み直すことがあるはず。4・5年生でもできます。ぜひ一度取り組んでみることをお勧めします。

【国語】

■ 大問は3つ。いずれも読解力や理解力をベースにしなが、提示されたグラフやメモ、資料などを用いて、適切な文章（字数制限ほか条件あり）で表現する能力が求められます。

■ あなたならどのように書きますか」と大問それぞれで問われます。

■ 選択式や短答式もあるが、意図を理解して読む必要があります。

【算数】

■ 大問は4つ。それぞれに求め方を式や言葉を使って書きましょう」その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう」といった記述式の設問3つがあります。

■ ①式を見て、その意味を読み取る問題、②式と式を関連づける問題、③文章から問われていることを正しく把握して、グラフや表を読み取る問題、④図形の平面及び立体認識を問う問題等が並びます。

最近、精度の高い文章を作り出せる対話型AI「チャットGPT」が話題となることが多くありますが、判断し表現する前段ともいえる思考といった部分をAI任せにはいけないと思います。思考力・判断力・表現力の育成は今も、そしてこれからも大事にしていきます。

よろしく
お願いします



石井 さん
教育実習生
(養護教諭)
5/8～6/2



早瀬 さん
ちば教職たまご
プロジェクト研修生
5/8～3/25